

イエスの母マリア



『聖母子像』(Bartolommeo Coriolano, 1630 - 1655)

イエスの母マリア (イエスのははマリア、*Maria Mother of Jesus*) は、ナザレのイエス (イエス・キリスト) の母。

1 生涯

ヨセフと婚約。結婚前にイエスを身ごもった。ヨセフは婚約者のマリアが身ごもっていることを知る。律法に忠実な義人であればマリアを不義姦通として、世間に公表し、申命記22・23に基づく石打ちの刑にする権利があったがそれを行せず、全てを受け入れマリアと結婚した。ただしこのことはヨセフが神を深く信じ、情け深かったからであり、義人でなかったことを意味するものではない。

カトリック教会ではマリアにはイエス以外に子はいなかったとしている (新約聖書中の「兄弟」という記述は「親類」という意味だと解釈している。中東では家族と親族の区別は実際には無く、呼びわけもなされていないため)。プロテスタントの中には、新約聖書中の「兄弟」という記述を、文字通り「兄弟」だと解釈し、ヤコブ、ヨセ、ユダ、

シモンの4人もマリアの子だったのだろう、としている宗派もある。

イエスの磔刑の後、晩年はイエスの十二人の弟子・使徒の一人である使徒ヨハネとともに小アジアのエフェソス で余生を送ったとも伝えられる。

2 福音書が描写するマリア

福音書に拠れば、処女懐胎により、イエスを身ごもったとされている。『マタイによる福音書』(1:18-25)では、マリアは聖霊による受胎をすでに知っていたが、ヨセフはナザレではない地で(2:22-23、恐らくベツレヘムで)夢にあらわれた天使のお告げによってマリアと結婚した。『ルカによる福音書』(1:26-38)では、ナザレで、天使ガブリエルがマリアの前に現れ、受胎告知した。

マタイによる福音書やルカによる福音書より、先に著述された『マルコによる福音書』では、イエスが30歳頃に洗礼者ヨハネからヨルダン川で洗礼を受けるところから書き始めている。もしも、イエスが聖霊によって受胎したという話が既にあったのならば、それを書かなかったということが『マルコによる福音書』の著者の信仰を示している。近年紀元後70年代に著述されたという説が強いが、その場合は、マタイやルカと10年~20年しか隔たっていないことになる。

3 宗教上のマリア

3.1 キリスト教

聖母マリアを参照のこと。

3.2 イスラム教におけるマリア

クルアーンの第19章「マルヤム」ではイエスの生誕物語が語られる (なお、クルアーン中の表記では「マリア」→「マルヤム」/「イエス」→「イーサー」となる)。新約聖書におけるより中東の風土を強く感じさせる描写となっている。なお3章にも平行する記述がある。

4 脚注

5 関連項目

- 史的イエス
- ティベリウス・ユリウス・アブデス・パンテラ
- イエスの兄弟、ヤコブ (イエスの兄弟)
- 生神女
- マグダラのマリア
- マリア (映画)

6 文章および画像の出典、投稿者、ライセンス

6.1 文章

- **イエスの母マリア** 出典: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%A8%E3%82%B9%E3%81%AE%E6%AF%8D%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%82%A2?oldid=55907501> 投稿者: Miri, Carbuncle, Nixon, Johncapistrano, Ultratomio, Goodmoon, Haruka~jawiki, K.M., XP~jawiki, Robbot, Tietew, Gakuinryou, Izayohi, Khhy, Jugger90, NKEISK, YurikBot, Tarmi Iwaya, 古鳥羽護, MelancholieBot, Yelm, Shinobar, イエスチャン, Urutapu, Escarbot, JAnDbot, 日本一弱い男, Bot-Schafter, VolkovBot, TXiKiBoT, Sakura-no-kuni, Adriana~jawiki, Synthebot, SieBot, Idioma-bot, Alexbot, YODAFON, Kliment.A.K., DragonBot, PixelBot, Hibiki-c, Julius Caesar, Alecs.bot, Worldtraveler, Luckas-bot, Nallimbot, Jotterbot, Yonidebot, YukkeBot, ArthurBot, Xqbot, GhalyBot, 超プロ住民, More blessing, TobeBot, Kinno Angel, Vee12, さかおり, コンソメパUNCH, Trvbot, EmausBot, F-mikanBot, ChuispastonBot, WikitanvirBot, Akasenbot, Dokomonta-Bot, MerlIwBot, モンゴメリー, HiW-Bot, Dexbot, Addbot, Jomey と匿名: 25

6.2 画像

- **ファイル:Commons-logo.svg** 出典: <https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/4/4a/Commons-logo.svg> ライセンス: Public domain 投稿者: This version created by Pumbaa, using a proper partial circle and SVG geometry features. (Former versions used to be slightly warped.) 原著者: SVG version was created by User:Grunt and cleaned up by 3247, based on the earlier PNG version, created by Reidab.
- **ファイル:Disambig_gray.svg** 出典: https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/5/5f/Disambig_gray.svg ライセンス: CC-BY-SA-3.0 投稿者: The original file was drawn by Stephan Baum and first uploaded in February 2005. 原著者: Stephan Baum (recolored by Mzajac, converted to SVG by Booyabazooka)
- **ファイル:Mary_Coriolano2.jpg** 出典: https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/4/49/Mary_Coriolano2.jpg ライセンス: Public domain 投稿者: Library of Congress 原著者: Bartolommeo Coriolano
- **ファイル:Nuvola_apps_important_orange.svg** 出典: https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/9/99/Nuvola_apps_important_orange.svg ライセンス: LGPL 投稿者: Original icon from gnome-themes-extras-0.9.0.tar.bz2. 原著者: David Vignoni (original), Bastique (SVG), Rocket000 (recolored)
- **ファイル:Wikiquote-logo.svg** 出典: <https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/f/fa/Wikiquote-logo.svg> ライセンス: Public domain 投稿者: ? 原著者: ?

6.3 ライセンス

- Creative Commons Attribution-Share Alike 3.0